

日出町教育委員会アクションプラン

目標及び指標

【目標】

1. 大分県学力定着状況調査において、正答率60%未満の児童・生徒の割合を減少させる。
2. 全国調査において「B活用」の平均正答率が、全小中学校の全教科で全国平均をこえる。
3. 「活用力の向上を図る」ことを目的とした授業を各単元で実施する。

達成指標	取組指標
大分県学力定着状況調査において、正答率60%未満の児童・生徒の割合を25%以下にする。(日出町教育振興計画より) 平成27年度 26.6%(県との差 -7.8%)	・小学校は月1回以上、補充学習の時間を学校全体で設定する。 ・単元末のテストで、小学校は各校ごとに、中学校は実施教科で、低学力層減少へ向けた目標値を設定し、分析・改善に努める。
全国調査において「B活用」の平均正答率が、全小中学校の全教科で全国平均をこえる。 平成27年度 小学校国語B3/5 算数B3/5 中学校国語B1/2 数学B1/2	・「活用力の向上を図る」ことを目的とした授業を、各単元で1回以上実施する。 ・学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員の公開授業に、小学校教員は全員、中学校教員は関係教科に1回以上参加する。他教科の教員も自校開催の公開授業に参加する。
町内すべての小中学校が、「授業改善の5点セット」の検証指標を達成する。	「授業改善の5点セット」の取組内容・指標について、年間2回の指導主事招聘の校内研究会で、情報交換や進捗状況について協議する。

行動計画

① 授業改善に関する行動計画

- ア 学校全体で取り組む授業改善に向けて
(管理職による授業改善の推進は必須、小学校における教科担任制の推進を含む)
- 県の授業観察チェックシートを参考にして各校ごとにシートを作成し、管理職の授業観察や互見授業で活用する。観察後は、校長または教頭で必ずシートを基にした指導を実施する。
 - 活用力を向上させるための校内研究を全学校で実施する。(ペア・グループ活動の充実等)
- イ 習熟の程度に応じた指導の充実に向けて(補充指導の充実を含む)
- 習熟度別指導を、小学校では5, 6年生の算数、中学校では、学校の実態合わせて数学、英語で実施する。
 - 補充指導については、小学校では放課後の時間を計画的に設定し、中学校では放課後職員室前の机や少人数教室等を利用した取組を実施する。また、夏季休業中もステップアップ講座(小)や学習相談(中)を充実させていく。
- ウ 司書教諭等を核とした学校図書館を活用した指導体制の確立に向けて
- 図書館活用を位置づけた年間指導計画について、その進捗状況を司書教諭が確認し、司書教諭部会で情報交換する。また、部会に指導主事が参加し、指導にあたる。
 - 職員に対し、図書館活用の啓発や図書館使用の調整を学校司書とともに実施する。
- エ 市町村の教科部会を活用した授業改善に向けて(特に中学校)
- 部会内での授業研究を実施し、授業改善へ向けた取組を推進する。
 - 中学校国語、数学部会においては、全国調査B問題について、部会での分析、授業での活用を行い、実践結果を交流する。

② 学びに向かう学校づくりに関する行動計画

(幼保小の連携・小中連携を含む)

- 生徒指導の3機能を生かした学級集団づくり(特別活動)の推進
- 児童・生徒が主体的に学ぶ授業改善と学習環境の整備(中核校日出中の取組を参考に)
- 小中学校間の積極的な交流(体験授業、行事参加等)
- 日出町幼保小連携協議会の年間2回実施(授業参観、情報交換、研修 等)

③ 保護者・地域と連携した学力向上の取組に関する行動計画

- ア 放課後や土曜日の教育環境の充実
- 学習ボランティアの活用(小学校)
 - ・月1回の放課後補充学習
 - ・授業中のサポート
 - ・夏季休業中のステップアップ講座
 - 教育委員会主催による「土曜子ども教室」の開催
 - ・全小学校の高学年対象(平成27年度30名)
 - ・地域のボランティアの活用による文化教室や算数教室の開催

④ その他

- 二学期制のメリットを生かした取組を推進する。

|

|